

村のチカラ

テーマパークなど、「村」をうたう施設は各地にある。その先駆けが愛知県犬山市の「博物館明治村」だ。

約百畝の敷地に、明治時代の建物を六十余り移築・復元している。国の重要文化財に指定された山梨県の元郡役所に「村長室」があり、「村長」の俳優、小沢昭一さんが「いらっしやい」と録音で歓迎してくれる。

一九五〇年代、高度経済成長の中で古い建物が次々に壊されている。残念に思った明治時代の建物を六十余り移築・復元している。国の重要文化財に指定された山梨県の元郡役所に「村長室」があり、「村長」の俳優、小沢昭一さんが「いらっしやい」と録音で歓迎してくれる。

治生まれの建築家、故谷口吉郎さんが、友人で名古屋鉄道（名鉄）社長だった故土川元夫さんに相談。犬山市郊外の名鉄所有の丘陵地に六五年、明治村をオープンさせた。

「村」と名付けた理由について、谷口さんと親交のあった館長の飯田喜四郎さんは「新しき村」の影響と推測する。

新しき村は、作家の故武者小路実篤さんが大正・昭和初期に建設。自給自足的な暮らしと芸術を通じて、自らも他者も尊重する共同体を目指した。宮崎県木城町と埼玉県毛呂山町で、今も存続している。

谷口さんは、武者小

都心の文化発信地に



「Bunkamura」に設けられたカフェテラス。泉のように水がわく周辺に人が集う＝東京都渋谷区

路さんが発刊していた雑誌「こころ」の同人で、親交があった。谷口さんは（新しき村のよつに）人が幸せに集う理想郷を明治村に求めたのではないかと、飯田さんは話す。

行楽の多様化で、明治路さんが発刊していた雑誌「こころ」の同人で、親交があった。谷口さんは（新しき村のよつに）人が幸せに集う理想郷を明治村に求めたのではないかと、飯田さんは話す。

60余の建物移築・復元

治村の来館者は減ったが、季節ごとのイベントなどは好評。新しい日本を切り開いた明治の空気にじかに触れられる、子どもの社会学習の場としても人気が出ている。

大都会にも「村」は息づく。東京・渋谷の「Bunkamura」。

「Bunkamura」の第一人者で、東急グループ会長だった故五島昇さんが、東急百貨店本店の隣に設立し、来年二十周年を迎える。オペラをはじめ内外の一流の音楽、演劇、映画、美術を紹介する。とともに、独自の文学



子どもたちを歓迎する「博物館明治村」村長の小沢昭一さん（右）＝愛知県犬山市（明治村提供）